



適熟収穫と収穫後の早期出荷を徹底 糖度が高くシャリ感が自慢の「富里スイカ」をPR!

千葉県JA富里市すいかトップセールス

- 期日：5月19日(金)
- 場所：大田市場 東京青果(株)
- 主催：JA富里市
- 内容：JA富里市「富里スイカ」の紹介や試食宣伝等

生育はやや遅れているが回復傾向!

千葉県産の大玉すいかの出荷が本格化することから、JA富里市の根本組合長や杉本すいか部長を始め、生産者や関係者の方々が多数来場して盛大にトップセールスが開催されました。

H28年大玉すいかの都中央入荷量は、熊本県が1位(占有率25%)、山形県が2位(同21%)、千葉県が3位(同19%)ですが、6月は千葉県がトップで51%を占めています。

今年のJA富里市の5月出荷分は、3月下旬前後の低温や降雨の影響から生育や肥大はやや遅れていますが、6月出荷分は天候回復から平年並に戻ってきたとのこと。また、食味や甘さは平年並からそれ以上の仕上がりようです。

昨年8月の台風で1割程度のすいかハウスが倒壊してしまい、本作型での復旧は間に合わず、本年度の作付け面積はやや減少しましたが、次年度の作型には完全復興する見込みとのこと。

昭和8年から栽培が始まった一大産地をPR!

当日配布された「富里スイカ」のパフレットによると、栽培は昭和8年から始まり、昭和11年に大玉すいかを皇室に献上したことから広く名前が知れ渡り、今では富里市で「富里スイカロードレース」(今年は第34回が6月25日(日)に開催)等のすいかにまつわる多数のイベントが行われ、地域をあげて大玉すいかの魅力をPRしているとのこと。

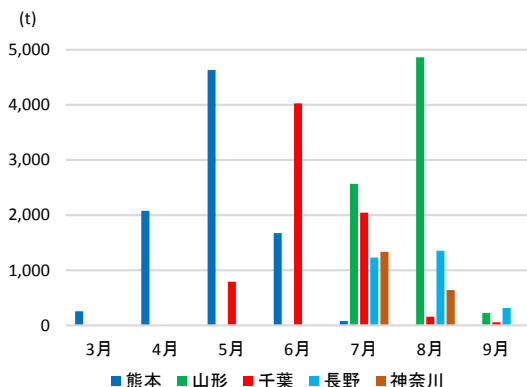
当日の大玉すいかの試食は、開始前から人だかりが出来て、「甘い」、「美味しい」と大変好評でした。さらに、そのまま食べるだけでなく、「スイカのスムージー」や「スイカの皮のかき揚げ」等特徴のある食べ方のレシピ紹介も行われました。



「富里スイカ」展示の様子



試食品の様子



都中央における「大玉すいか」の月別・産地別入荷量
(H28年・3~9月)



試食宣伝の様子